

クールジェッター
COOLJetter®
(CLJ-C590A)
取扱説明書

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用の前に必ず本書をよく読み、正しく安全に使用してください。
また、お読みになった後はいつでも見られる場所に保管してください。

なお、品質、性能向上、その他の事情で部材の変更を行うことがあります。
その際には、本書の内容と一部異なる場合がありますが、
あらかじめご了承ください。

— 目次 —

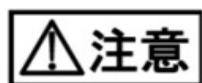
安全上のご注意	・・・1～3
1 ご使用の前に	・・・4
2 各部の名称と役割	・・・5～7
3 運転準備	・・・8
4 ご使用方法	・・・9～11
5 メンテナンス	・・・12～15
6 故障かな、と思ったら	・・・16～18
7 仕様	・・・19

安全上のご注意

本書では、ご使用者への危害や損害を未然に防ぐための注意事項を「警告」と「注意」に分けてお知らせしています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。



警告を無視して誤った取扱いをすると、
人が死亡又は重傷を負う可能性があります。



注意を無視して誤った取扱いをすると、
人が傷害を負ったり、物的損害が発生したりする可能性があります。



この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「指示」内容です。



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



爆発性雰囲気では絶対に使用しないでください。
爆発性雰囲気(爆発性のガスが存在したり発生したりする環境及びその可能性のある環境)では絶対に運転しないでください。モーターが焼損したときや、異物の混入による接触火花、電源ケーブルの差し込み・抜き取り時のコンセントからの火花などにより、周囲のガスが爆発して危険です。



本製品に水をかけないでください。火災、感電、故障の原因となります。



ファンカバー、ポンプカバー以外の分解、改造は、絶対にしないでください。
異常作動による火災、感電、怪我などの原因になります。



火気の近くや高温(50℃以上)の場所に設置しないでください。
感電、漏電、変形の原因になります。



直接、人にむけて送風しないでください。
万一、吸い込まれた異物が人に当たった場合、失明などの事故の負傷の恐れがあります。



吸込口や吹出口に指や棒などを入れないでください。指や手を損傷する恐れがあります。



定常運転する前に、ファンの回転方向を確認してください。
ファンを逆回転で運転した状態で霧を噴霧するとモーターに霧がかかり、感電事故やモーター焼損の原因となります。



下記のような異常が生じた際には直ちに運転を停止し、電源を落としてください。
火災、感電、怪我などの原因となります。

- ・スイッチを入れても羽根車が回らない、ノズルから霧を噴霧しない。
- ・羽根車が回っても遅かったり、不規則な回り方をする。噴霧量が一定でなくばらつく。
- ・コゲくさい臭いがする。
- ・うなり音、ゴロゴロ音等の異常音がする。



配線作業は工事専門業者にご依頼ください。
火災、感電、怪我、故障などの原因となります。



必ずアース線を接続してください。火災、感電、故障の恐れがあります。



清掃、保守、点検作業の際は、必ず盤内の漏電ブレーカを落として、元電源を切ってください。感電の恐れがあります。



運搬、設置、配管、配線、運転・操作、保守・点検の作業は、専門知識のある人が実施してください。火災、感電、怪我などの恐れがあります。



修理は、必ず弊社営業所にご依頼してください。
修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく事故や怪我の原因となります。

注意



運転中、電動機はかなり高温になりますので、手や体を触れないようにご注意ください。
火傷の恐れがあります。



ポンプの吹出配管側に安全弁機能を装置した調圧装置が組み込まれています。取り外したり、余水口をふさいだりしないでください。調圧装置がなかったり余水口がふさがったりすると、ノズル部が詰まった場合、ポンプ又は配管が破損して思わぬ損傷をすることがあります。



ポンプの空運転（ポンプ内部に搬送液がないときの運転）はしないでください。
ポンプ破損の原因となります。



ファンに空気以外は吸い込ませないでください。
酸・アルカリ・粉塵などを吸引すると本機の寿命を著しく縮めます。水滴を含む空気を吸引すると、モーター部の絶縁不良などによって製品の損傷の原因となります。



ファンを止めた状態でポンプを運転（噴霧）しないでください。
ファンの故障、漏電の原因となります。
噴霧開始時は、先にファンを回し、数秒後に噴霧を開始してください。
噴霧停止時は、先に噴霧を止めて、5秒ほどあとにファンを停止してください。



安定のよい水平な場所に停止して、キャスターのストッパーをONにしてブレーキを掛けて使用してください。送風によりCOOLJetter[®]が移動、転倒する恐れがあります。



1分間以内のスイッチの操作繰り返しはしないでください。
スイッチやモーターの寿命を著しく縮めます。



風の流れを遮らないでください。
風の流れを遮るとモーターの冷却が悪くなり、モーターの寿命が縮まります。



急激な温度変化を与えないでください。



高温液のご使用は差し控えてください。
漏電、感電、ポンプの故障などの原因になります。



ポンプを締め切り状態での連続運転はしないでください。（吐出バルブを閉めた状態）



結露に注意してください。
結露することにより、モーター部の絶縁性能が劣化し、サビの発生や製品寿命に影響します。
冬季や寒冷地では、特に注意ください。（結露：冷たい物〔例：眼鏡、窓ガラス〕の表面に暖かい空気が触れ、水蒸気が滴となって付く現象）



吐出方向を変えるときは、本体部分と台の部分が可動しますので、
可動部分には触れないでください。触れると怪我をすることがあります。



上水等の清水をご使用ください。
上水等の清水以外を使用すると水フィルタのメンテナンス周期が短くなります。



越流口の出口は閉じないでください。
ボールタップは消耗品のため、止水不良を起こした場合に越流口から排水します。
越流口を塞ぐとタンクから給水側に逆流する恐れがあります。



通水時には高圧がかかります。ノズルやホースの脱着は圧力を抜いてから行ってください。



通水しないときは内部の水を抜いてください。また、凍結にご注意ください。



寒冷地、及び冬季間に凍結の恐れがあるときは、使用後ポンプ内の水を全部抜いてください。



ピストン部、パッキン類は使用に応じて磨耗します。水漏れ・圧力不足となりますので、
定期的に補修・交換を行ってください。



修理、分解は、必ず専門の人間が行ってください。改造は行わないでください。
定期的に補修・交換を行ってください。



電源コードについては、下記注意してください。

- ・電源コードを乱暴に扱わないでください。
- ・電源コードを持って本機を移動させたり、電源コードを引っ張ってコンセントから抜いたりしないでください。
- ・電源コードの上に重いものを載せないでください。
- ・電源コードを熱の加わる所へ近づけないでください。
- ・電源コードに酸やアルカリ・油・水のかかる恐れがないようにしてください。
- ・電源コードを角ばったところに当てないでください。

1. ご使用の前に

●納入品について

取付けの前に、以下の物品が揃っていることを確認してください。



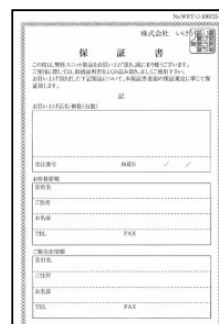
COOLJetter®本体・・・1台
CLJ-C590A



フィルターレンチ・・・1個

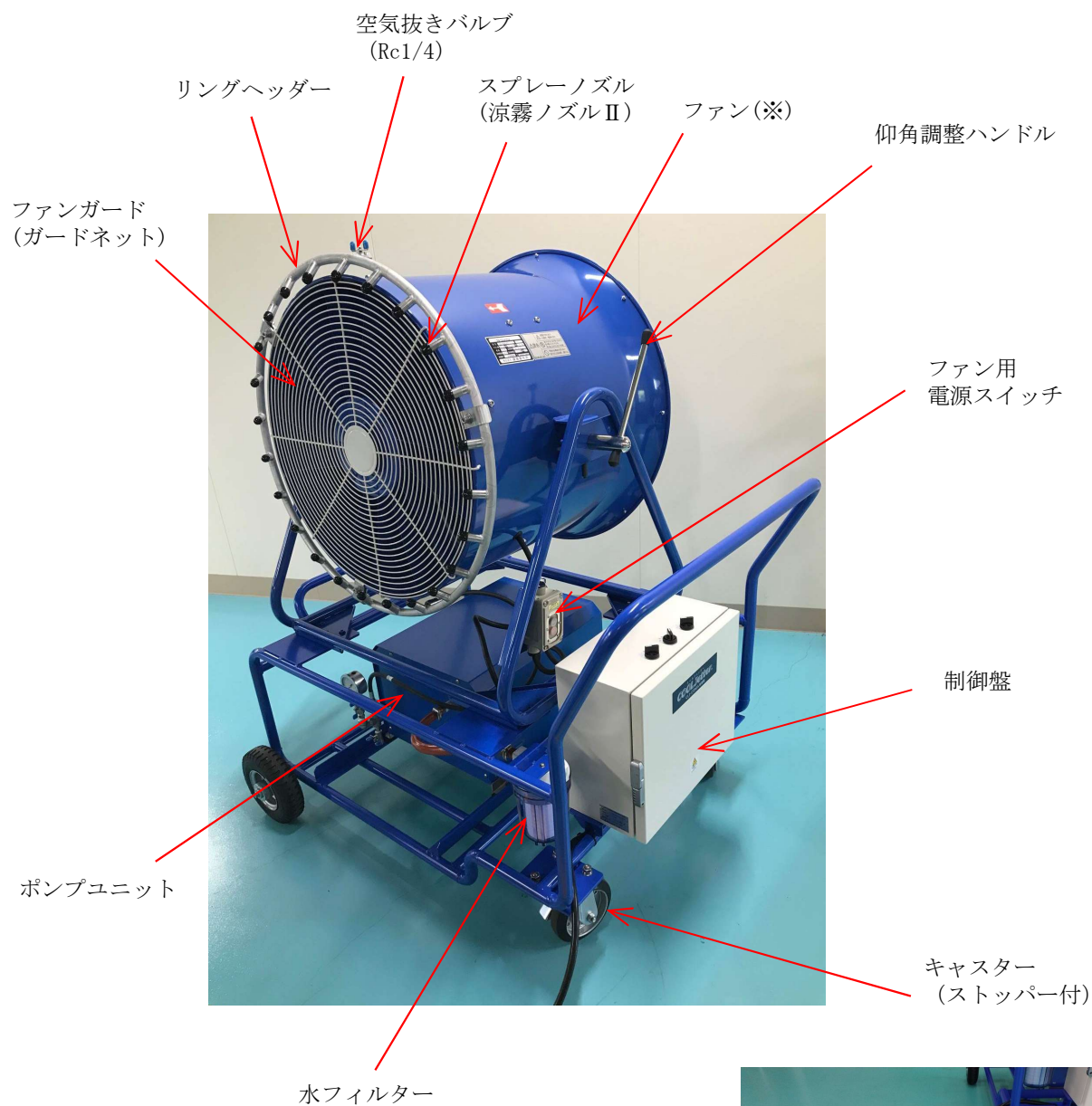


取扱説明書（本書）



保証書

2. 各部の名称と役割



(※) 当製品はAC200V・60Hz定格のファンをインバータで駆動していますので、入力電源が50Hz、60Hzどちらの地域でもそのままご使用いただけます。

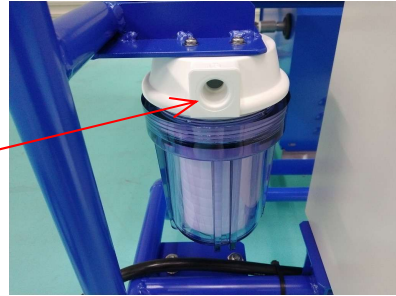


電源ケーブル(10m)
AC200V(3相)

水フィルター

5 μ mのエレメントを内蔵したフィルターです。
給水は必ずフィルターを通してください。
尚、水フィルターの最高使用圧力は0.42MPaです。

給水ホース接続 (Rc3/8)
(市水をホースで接続してください)



ポンプユニット

ポンプユニットはカート内(ファンの下)に設置しています。
ポンプ内のボールタップ付きのタンクに水を貯留して、高圧(6MPa)水を吐出口からリングヘッダーに送ります。

耐圧ホース
ポンプとリングヘッダー
を繋ぎます

圧力計
吐出圧力を確認します

圧力計用バルブ

残圧抜きバルブ
(Rc1/4)

給水口
水フィルターを通った水が
タンクに供給されます。

オイルゲージ



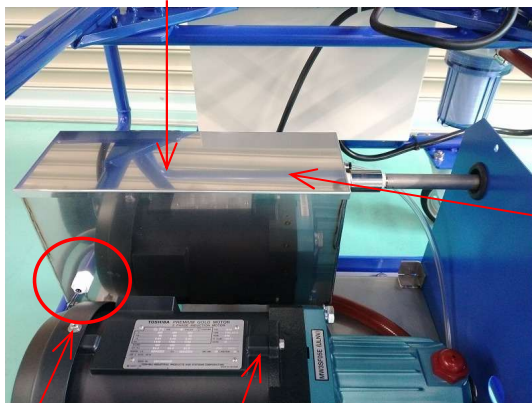
ポンプ架台裏面



排水口バルブ
(Rc1/4)

越流口
(Rc3/8)

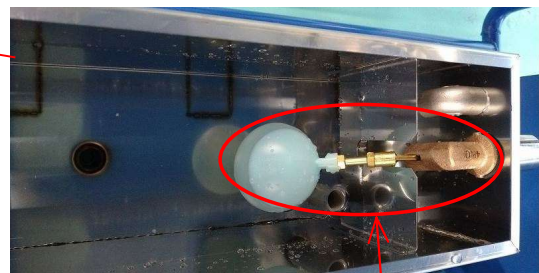
タンク



濁水センサ

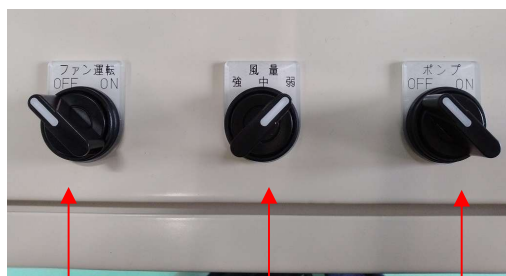
ポンプ

タンク内部



ボールタップ

制御盤



ファン運転
スイッチ

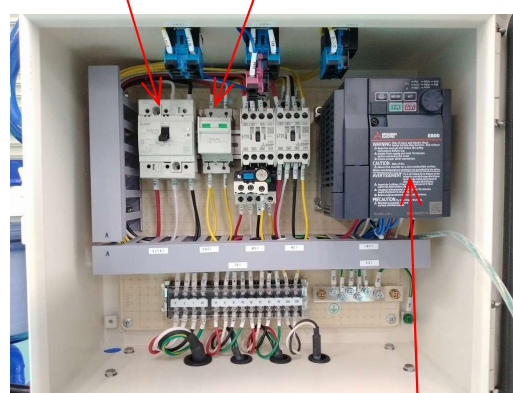
風量
スイッチ

ポンプ運転
スイッチ



制御盤外観

漏電ブレーカ サーキットプロテクタ



制御盤内部

インバータ(※)

(※)インバータでファンの回転数を制御します。

3. 運転準備

●設置

①平な面に設置し、必ずキャスターのストッパーにて機器を固定してください。

※ 固定しない場合運転中に機器が動く為、事故につながります。

●ポンプ運転準備

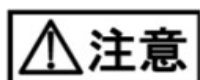
①水フィルターの一次側（6ページ参照）にホースを接続し、市水を供給してください。
給水ホースは水道圧に耐え、十分な径のものをご準備ください。（内径 13mm以上）

※ 径が細いと圧力損失が生じ、水の供給不足になることがあります。

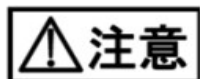
※ 市水は流量15L/min以上、圧力は0.42MPa以下としてください。

②タンクへ水を供給してください。

※ 給水量が噴霧量より少ないとタンク内の水が減り、渴水センサーが働き
ポンプの運転が停止します。



水フィルターの耐圧は0.42MPaです。
それ以上の圧力がかからないよう減圧弁等を設けて給水圧力を調整してください。



給水後、タンクが満水の状態で本機を移動させると、越流口から少量の水が溢れ出る
可能性があります。移動させる際は排水口から水を抜いてください。

●ファン運転準備

①ファンの仰角調整ハンドルを緩め、ご使用状況に合わせてファンの角度を調整してください。

調整後、仰角調整ハンドルを閉めて固定してください。

※ 仰角調整ハンドルを緩めるとファンは自重により下方向へ傾き、スイッチボックスに
干渉します。

調整時は必ずファンを保持した状態で行い、15° 以上は傾けないでください。

※ 仰角調整ハンドルをしっかりと固定していない場合、運転中にファンが傾き
事故につながります。

4. ご使用方法

●運転開始時

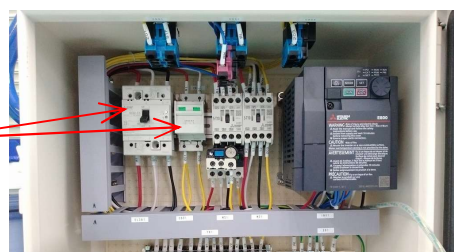
- ①下表を参考に COOLJetter[®]の電源を接続してください。
- ②ファンに設置しているファン用電源スイッチをONにしてください。

スイッチをONに!



- ③制御盤内の漏電ブレーカ、サーキットプロテクタをONにしてください。

漏電ブレーカ、サーキット
プロテクタをONに!



- ④風量スイッチで、強・中・弱を選択し、ファン運転
スイッチをONにしてください。
※ファンの回転方向を確認してください。

- ⑤ポンプ運転スイッチをONにしてください。
※ファンが回っていない状態ではポンプは運転しません。



ファン運転
スイッチ

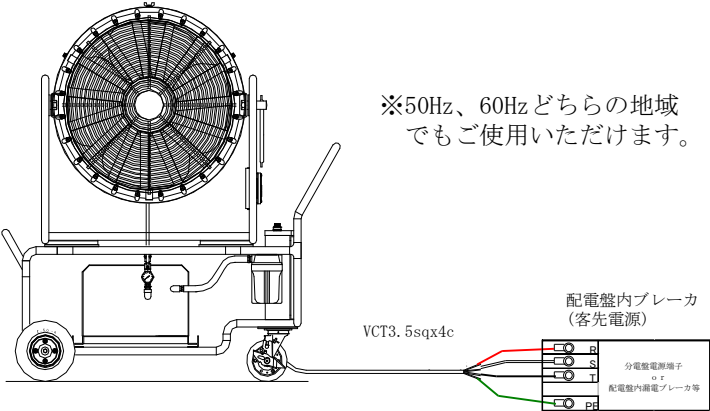
風量
スイッチ

ポンプ運転
スイッチ

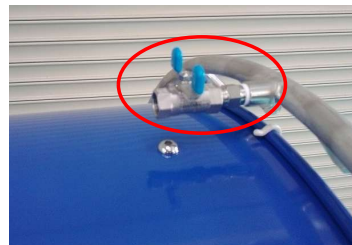


注意

ファンの送風方向が逆のときは、すぐに停止して一次電源R、S、T 3本線のうち
任意の2本の配線をつなぎ替えてください。

型番	接続方法	備考										
CLJ-C590A	下図フローで結線してください。  ※50Hz、60Hzどちらの地域でもご使用いただけます。 ・CLJ-C590Aの電源ケーブル線の色は、赤、白、黒、緑 です。 赤→R端子、白→S端子、黒→T端子、緑→PE端子(アース) にそれぞれ接続してください。 ※電源ケーブルは切り離れた状態です。 線径、ブレーカにあった圧着端子をご準備ください。	・アースを必ず取ってください。 ・電源ケーブルを長距離伸ばすときは、下表の断面のケーブルを選定してください。 (電圧降下防止のため) <table><tr><th>ケーブル長</th><th>断面積</th></tr><tr><td>20m</td><td>2.0mm²</td></tr><tr><td>50m</td><td>3.5mm²</td></tr><tr><td>100m</td><td>8.0mm²</td></tr><tr><td>200m</td><td>14mm²</td></tr></table>	ケーブル長	断面積	20m	2.0mm ²	50m	3.5mm ²	100m	8.0mm ²	200m	14mm ²
ケーブル長	断面積											
20m	2.0mm ²											
50m	3.5mm ²											
100m	8.0mm ²											
200m	14mm ²											

- ⑥リングヘッダー上部の空気抜きバルブをゆっくり開きながら、配管内の空気を抜いてください。
(飛散防止のため、布などで空気抜き弁を覆いながら空気を抜いてください。)

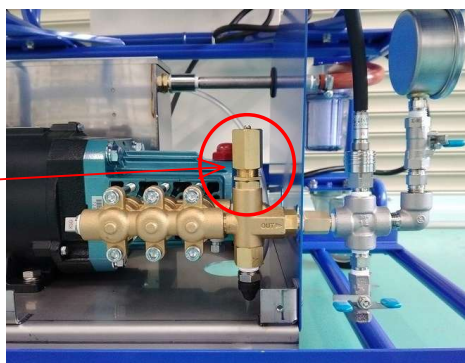


- ⑦噴霧圧力（6MPa）を確認してください。

圧力を確認する時は、圧力計用バルブを開いて確認してください。

圧力調整をおこなう場合は、ポンプユニットのカバーを外し、調圧弁の六角部をを回して調整してください。

調圧弁



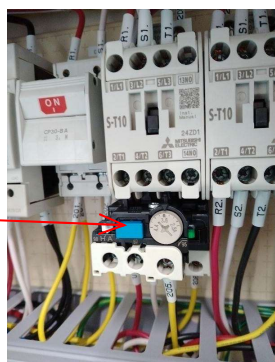
圧力計用
バルブ



●異常発生時

過負荷等により、途中でファン、ポンプユニットが停止した場合は直ぐに運転を停止して漏電ブレーカ・サーキットプロテクタ・ファン運転スイッチ・ポンプ運転スイッチをOFFにして、電源ケーブルを外してから、異常の確認、およびファン、ポンプのメンテナンスを行ってください。メンテナンス完了後、それぞれの過負荷リセットをおこない復旧してください。
(確認方法、メンテナンス方法については12ページ以降を参照ください。)

ポンプの過負荷
リセットボタン



ファンの過負荷
リセットボタン



●運転停止時

①ポンプ運転スイッチをOFFにし、噴霧停止してください。

②約5秒後に、ファン運転スイッチをOFFにしてください。



③リングヘッダー内の水が噴き出す恐れがあるので残圧抜きバルブをゆっくり開けて、リングヘッダー内の残圧が抜けたことを確認し、バルブを閉じてください。

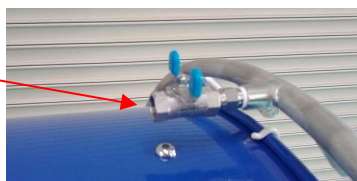
残圧抜きバルブ



●長期運転停止時

長期間停止される場合は、給水ホースを取り外し、電源コードを配電盤から外してください。
残圧抜きバルブと空気抜きバルブを開いてリングヘッダー内の水を抜き、ポンプとリングヘッダーを接続している高圧ホースを外してください。
また、タンクの排水口バルブからタンク内の水を抜いてください。
(排水口バルブはポンプユニット底面にあります)

空気抜きバルブ



残圧抜きバルブ



排水口バルブ
(Rc1/4)

5. メンテナンス

●ファンのメンテナンス



注意

(必ずブレーカ(元電源)をOFFにして、電源ケーブルを外してから実施してください。
また羽根の掃除方法については、14ページを参照してください。)

- ・ファンの羽根車にホコリ・ゴミや汚れ等が付着していたら、柔らかい布やブラシ等で取り除いてください。(汚れが付着したままだと、異常振動の原因となります。)
- ・ファン内部に水(霧)が入り込んだときは、必ず拭き取って乾燥させてください。
- ・ファン本体の汚れはぬるま湯か中性洗剤を浸した布で拭き取り、柔らかい布等で乾拭きしてください。
- ・ケーブルやボルト等のグラツキ、損傷がないか点検してください。

●ポンプのメンテナンス

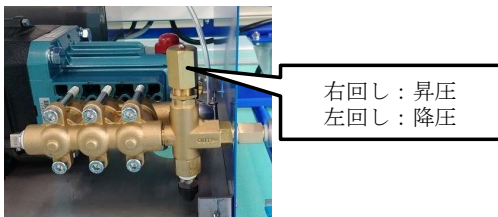
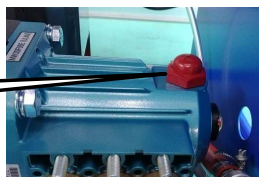


注意

(必ずブレーカ(元電源)をOFFにして、電源ケーブルを外してから実施してください。
運転直後はポンプ、モーター及びポンプオイルは高温になって火傷の恐れがあります。
ポンプを停止して十分に冷えてからオイル交換等のメンテナンスを実施してください。)

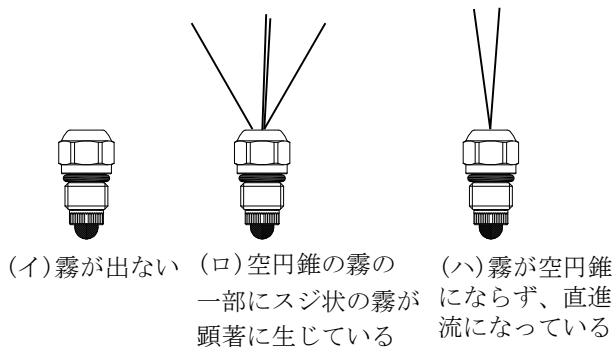
- ・ポンプ前面のオイルゲージでオイル量を確認してください。オイルゲージの範囲より少なければカバーを取り外し、ポンプの注油栓(赤色の栓)を開けオイルを補給してください。多めに入れ過ぎるとポンプ運転時オイルが吹きこぼれるので注意してください。
- ・ポンプのオイル交換は運転時間が500時間位の間隔で交換してください。
また、オイルが白く濁ったり汚れたりしている場合は速やかにオイルと交換してください。
オイルは経年劣化しますので、上記の時間に満たない場合でも1年に一度はオイル交換してください。(SC級以上10W-30)
- ・オイルの抜き取りはポンプクランク室底のプラグを開けてオイルを抜いてください。
廃油受け皿などの容器を用意し、ポンプユニットの下で受けてください。
オイルの入れ替え量は約0.4Lです。
- ・ポンプ運転中に吐出圧力を確認して圧力計が6MPaを示してなければ、カバーを取り外し、調圧弁で圧力調整を行ってください。
- ・ケーブルやボルト等のグラツキ、損傷がないか点検してください。
- ・各部からの油漏れ、水漏れ及び配管に緩みがないか点検してください。
配管が緩んでいると事故につながります。
- ・ポンプ給水側の水フィルター内エレメントの損傷、汚れ状態を確認してください。
汚れがひどい場合はエレメントを取替えてください。

●ポンプの日常点検

No.	現象	項目	手順	備考
1	日常点検	液漏れ等	圧力計指示値や針に振れがないことを確認してください。 内部に液漏れがないことを確認してください。 	内部の確認、圧力調整時には、側面のカバー取付ネジ（6本）と正面カバー上のネジ（2本）を取り外しポンプカバーを外して行います。
		圧力	吐出圧力を確認してください。 吐出圧力を6MPaに調圧弁で調整してください。 	
2	定期点検	オイル量の確認	正面カバーのオイルゲージで確認してください。 オイルが減っている場合は右の手順で補給してください。 このとき補給量はポンプ本体のレベルゲージで確認してください。   	オイル交換の際は、側面のカバー取付ネジ（6本）と正面カバー上のネジ（2本）を取り外しポンプカバーを外して行います。 オイルの排出は、ポンプクランク室底のプラグを開けて抜いてください。 廃油受け皿などの容器を用意して廃液を受けてください。 給油は、ポンプの注油栓（赤色の栓）を開けて給油してください。
3	吐出量不足や圧力計の異常な振れ	異物除去やエア噛み込みを除去	貯水タンクから接続している給水ホースをフィルターから貯水タンクに接続しているホースと入れ換えポンプ吸水側を加圧して運転を行ってください。 その後、吐出側バルブを開閉し正常になることを確認してください。 	運転休止時間が長いとき、また異物を噛み込むと左記の現象が起きます。 これはプランジャーポンプ特有の現象です。

●ノズルのメンテナンス

①ノズルの噴霧パターンが下図のようになっていたら、新品と交換してください。

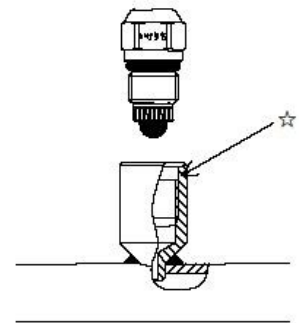


ノズル品名
(以下品名で注文ください)

涼霧ノズルⅡ

②ノズルの取付時は、以下のように取り付けてください。

- ・ヘッダーのOリングのシール面(☆印部)に異物の付着がないことを確認してください(右図)。
- ・ノズルの締付けは、最初は手締めとし、正確にねじ込まれたことを確認後、スパナ(14サイズ)で増し締めしてください。
- ・推奨トルクは5～10N・m です。



●保管時 (本機を保管または長期運転休止する場合)

- ・リングヘッダー内の水は必ず排水してください(エアーブロー等で水分を除去するのがお勧めです)。
- ・屋内で温度・湿度変化が少なく、振動や粉塵が発生しない場所に保管してください。
また、ビニールでカバーをすることをお勧めします。
- ・3か月程度に1度はファンの試運転をしてください。
ファンモーターが長期間(3か月程度)運転していない場合、保管状況によっては、軸受けが油膜切れを起こしサビの発生や異常音発生の原因となる恐れがあります。
ファンを試運転することで油膜切れを防いでください。

●羽根の掃除方法

(必ずブレーカ(元電源)をOFFにしてから実施してください。)

- ①リングヘッダーに高圧ホースが接続されている場合は、取り外してください。
- ②リングヘッダーの反対側のファンガードを、取り外してください。
- ③ホコリ・ゴミや汚れ等が付着していたら、柔らかい布やブラシ等で取り除いてください。
洗剤等使用する場合は、柔らかい布を中性洗剤を溶かしたぬるま湯に浸して、
強く絞ってから拭いてください。
(清掃時に、羽根を変形させないでください。変形させると異常振動の原因となります。
また羽根をモーターから取り外すことはしないでください。)
- ④逆の順序で取り付けてください。
(ファンガードの固定ボルトは確実に締め付けてください。)

●ファンガードの掃除方法 (必ずブレーカ (元電源)をOFFにしてから実施してください。)

- ①リングヘッダーに高圧ホースが接続されている場合は、取り外してください。
- ②リングヘッダー側のファンガードのホコリ・ゴミや汚れ等を柔らかい布やブラシ等で取り除いてください。洗剤等を使用する場合は、柔らかい布を中性洗剤を溶かしたぬるま湯に浸して、強く絞ってから拭いてください。
- ③リングヘッダーの反対側のファンガードを、取り外してください。
- ④リングヘッダーの反対側のファンガードのホコリ・ゴミや汚れ等を柔らかい布やブラシ等で取り除いてください。洗剤等を使用する場合は、柔らかい布を中性洗剤を溶かしたぬるま湯に浸して、強く絞ってから拭いてください。
(汚れが付着したままだと、閉塞したときにモーターに負荷がかかり、ブレーカが落ちる原因となります。)
- ⑤逆の順序で取り付けてください。
(ファンガードの固定ボルトは確実に締付けてください。)

●ノズル、リングヘッダーの掃除方法

(必ずブレーカ (客先電源)をOFFにしてから実施してください。)

- ①ノズル、リングヘッダーのホコリ・ゴミや汚れ等を柔らかい布やブラシ等で取り除いてください。
(汚れが付着したままだと、ボタ落ちが発生する原因となります。)

6. 「故障かな？」と思ったら

●お問い合わせの前に、以下のことについてご確認ください。

1. ファンについて

No.	こんなときは	ご確認ください	直し方
1	電源入れても送風開始しない。	ブレーカが落ちていませんか？	ブレーカを復帰させ、電源を入れてください。
	途中で送風が止まった。	サーマルリレー(保護装置)が働いていませんか？	モーターを冷却させてから、送風開始してください。 羽根がロックしている、羽根が汚れていると過負荷状態となり、モーター保護装置が作動することがあります。ファンの点検・メンテナンスも併せて実施してください。
2	漏電している。	結露やファン内部が濡れていませんか？	ファン内部の水を拭き取り、乾燥させてください。
3	送風時に異音、振動がする。	羽根に汚れが堆積していませんか？	羽根を掃除してください。
		リングヘッダーの固定ボルトにグラツキがありませんか？	ボルトを増し締めしてください。
		モーター軸受けが油膜切れしている。	ファンを運転し、軸受けに油膜をなじませてください。

2. ノズルについて

No.	異常状態	原因	対策
1	噴霧しない。	1. 圧力不足。 2. チップ噴口部またはストレーナの目詰まり。	1. 配管内圧力を確認のうえ、6MPaにする。 2. ノズルを取り外し、チップ噴口部とストレーナをエアブローし再組み付けする。
2	水滴の発生。	1. 圧力不足。 2. 噴口回りの異物付着。	1. 配管内圧力を確認のうえ、6MPaにする。 2. ノズルを取り外し、チップ噴口部とストレーナをエアブローし再組み付けする。
3	空円錐にならない。	1. 圧力不足。 2. チップ噴口部の目詰まり。	1. 配管内圧力を確認のうえ、6MPaにする。 2. ノズルを取り外し、チップ噴口部とストレーナをエアブローし再組み付けする。
4	水漏れする。	1. Oリングの異常。 2. 締め付け不足。	1. Oリングの掃除、交換。 2. 増し締めする。 (推奨締め付けトルク5～10N・m)

3. ポンプについて

状 況		予想原因	対 策
1) 水を吸わないか 吸い込みにくい	給水口まで	フィルターのごみ詰まり	掃除
		給水ホースの破損・屈折	補修・交換
		給水ホースの接続不良	正しく接続
		給水接続パッキンの異常	補修・交換
		給水ホースの長さが長すぎる	交換
		給水管径が小さすぎる	適正寸法にする
	吸水・加圧部	弁の固着・ゴミ等の詰まり	掃除
		弁の傷付、磨耗	修正・交換
		弁バネの破損	交換
		Vパッキン、シールパッキンの 損傷・磨耗	交換
		Oリングの損傷	交換
	調圧部	調圧装置が加圧状態になっている	加圧状態を解除 する
		エアー抜きが不十分	エアー抜きをする
ノズル	ノズルチップの詰まり	掃除・交換	
2) 圧力が上がらない	吸水・加圧部	吸水量が不足している	1)項を診断
	調圧部	アンローダ弁の不調	調整・交換
		アンローダ弁の圧力調整ネジの 緩み	調整
	圧力計	圧力計の不良	交換
	ノズル	ノズルチップの破損	交換
	ホース	吐水ホースの破損	交換
3) 噴霧すると圧力がさがる	ノズル	ノズルの磨耗	交換
		ノズルの噴霧量が多すぎる	適正ノズルに交換
	ポンプ	吸水量が少ない	1)項を診断
	ホース	吐水ホースが長い	適正長さにする
		吐水ホースが細い	適正太さにする
		吐水ホース接続部からの水漏れ	補修・交換
4) 圧力変動する (給水ホース、吐水ホース等が大きく揺れる)		フィルターが目詰まり	交換
		エアーの吸い込み	接続部点検・整備
		吸水・加圧系統の不良	1)項を診断

状 況	予想原因	対 策
5) 騒 音	ベルトの伸び・磨耗、プーリの磨耗	調整・交換
	軸の損傷	交換
	コンロッド等のボルトの緩み	増し締め
	ベアリングの破損	交換
	アンローダ弁の組立不良	調整・交換
	エアーの吸い込み	点検
	供給水道圧が高すぎボールタップが脈動している	水道圧の調整
6) ポンプ下部からの水漏れ	Vパッキンの磨耗	交換
	Oリング、プランジャーの磨耗	交換
7) ポンプ下部からの油漏れ	オイルシールの磨耗	交換
	プランジャーの磨耗・傷	交換

7. 仕様

1. 全体仕様

機種名	C00LJetter® CLJ-C590A
電源電圧 (50Hz/60Hz)	AC200V 三相
消費電力 (50Hz/60Hz)	2.3kW
寸法 (幅 x 奥 x 高)	1250mm x 990mm x 1360mm
質量 (空水時)	約200kg

2. ファン仕様

機種名	BJ-604-E3
ノズル型番	涼霧ノズルⅡ
ノズル个数	24個
噴霧量 (50Hz/60Hz)	56.6L/hr (6MPa時)
定格電流 (50Hz/60Hz)	7.2A/8.0A
送風量 (50Hz/60Hz)	323m ³ /min (風量：強)

3. ポンプユニット仕様

機種名		C590Aポンプユニット
ポンプ型式		高圧プランジヤーポンプ
最高圧力		6.0 MPa
吐出量 (50Hz/60Hz)		1.5/1.8 L/min
給水方法		ボールタップ止水式 (6Lタンク付)
対象液体		清水 (常温)
ポンプ重量		約 45kg
ポン プ	寸法 (幅 x 奥 x 高)	450mm x 約600mm x 約300mm
	型 式	MW3SF05E
	構 造	三連プランジヤーポンプ
	回転数 (50Hz/60Hz)	1440 / 1730 min ⁻¹
	潤滑油容量	0.3L (SC級以上 10W-30)
電 動 機	型 式	全閉外扇屋内型
	出力・定格	0.75 kW
	極数・絶縁	4 極 F 種
	定格電流 (50Hz/60Hz)	3.8 / 3.4 A
給水口		Rc3/8
吐水口		1/4 カブラ
付属品		タンク渇水センサー付

株式会社 いけうち
<https://www.kirinoikeuchi.co.jp/>

〒550-0011 大阪府大阪市西区阿波座 1-15-15 第一協業ビル
Tel : 0120-997-084 Fax : 06-6538-4023 E-mail : mist@kirinoikeuchi.co.jp

各地の営業所情報はこちらをご参照ください。

<https://www.kirinoikeuchi.co.jp/company/location/>